

博士学位論文執筆における留意点

理工学研究科学習指導会議

1. はじめに

この文書は下記の趣旨により博士学位論文を執筆する際の留意点についてまとめています。

■円滑な論文審査のために

学位論文の初稿が内容はもちろん形式においても整っていれば、指導教員や審査委員は円滑に論文の審査を行うことができます。

■公開される図書としての体裁を整えるために

博士学位論文は学位が授与された後 1 年以内に印刷公表する義務があり、理工学部メディアセンターと国会図書館に保管され公開されます。また、簡易製本された学位論文や電子ファイルが研究室の後輩達のために保管され、研究交流のある他大学の教員、企業の研究者に贈呈されることもあります。そのため、学位論文は公開図書としての内容、書式、体裁を整えておく必要があります。

基本的な注意

ここで述べている留意点は、理工学の多様な分野にある程度共通すると思われる内容です。学位論文に関してはその分野に特徴的な事柄、伝統的に採用されている取り決めなどもあります。執筆にあたっては、必ず指導教員や審査委員に確認してください。2. 博士論文の体裁以外の項では、書かれているすべてに従わねばならないものではありません。

なお、学位論文の初稿作成が終わったあとの「受理申請」と「審査」の手続きなどについては、下記の資料を必ず読んでそれに従ってください。

① 博士学位申請手続き要綱

理工学研究科が定めており、下記から入手できます。

<https://www.students.keio.ac.jp/yg/gsst/procedure/thesis/doctor.html>

② 専攻の定める書式と書類

総合デザイン専攻は、研究科統一のフォーム以外に受理申請や審査における書類等を定めています。これらは必ず[専攻のWebサイト \(https://www.design.st.keio.ac.jp/\)](https://www.design.st.keio.ac.jp/)から入手してください。

2. 博士論文の体裁

学位論文を手にしたとき最初に目にするのは表紙と背表紙、次いで中表紙です。これらの書式、体裁については理工学研究科で統一されるよう定めています。下記 URL で必ず確認してください。

<https://www.students.keio.ac.jp/yg/gsst/procedure/thesis/doctor.html>

基本的なことは、表紙と背表紙には、

論文題目 / 学位取得年月(あるいは年度、英文は年月) / 氏名

を必ず記載し、その他の事項は記載しないでください。

中表紙には上記の表紙・背表紙に記載した事項を必ず記載した上で、それ以外に、学位取得に際し重要な情報である

学位取得大学・研究科名 / 学位の種類

すなわち、

慶應義塾大学大学院理工学研究科 / 博士(理学、工学、学術のいずれか)

を記載するよう勧めます。これにより、博士学位論文を手にしたときにこれらの情報が読者にすぐに伝わります。(注：総合デザイン工学専攻では書式が指定されているので必ず専攻指定のフォーマットを使用してください。)

3. 学位論文の構成例

通常、学位論文は一般の書物と類似の構成を取ります。ここでは和文による学位論文の代表的な構成例を示します。これ以外の構成もありますので、指導教員と相談してください。

タイトルから目次まで

タイトルページ

これは上述した中表紙にあたります。

続いて論文要旨のページをここにおくこともあるが、無い場合が多い

目次

図目次 (リスト)

表目次 (リスト)

ここまでのページ数は通常、ローマ数字の、 i, ii, iii, iv・・・などを使う。

本文の構成

第1章 緒論、序論、あるいは、まえがき

第2章

第・章

論文の本論となる

・
第・章

第・章 結論、あるいは、むすび(第1章のタイトルに対応させる)

本論に続く部分

参考文献(※1)

謝辞(※2)

付録

(※1) 各章末に参考文献を付けることもあります。参考文献である論文や著作物などの書式については、学位受理申請に必要な、「論文目録」の書式に合わせるとよいでしょう。また、これらの書式を専攻で定めている場合があるので、それを参考にして記載してください。なお、参考文献と謝辞の順序を上記の例と逆にする場合もあります。

(※2) 謝辞の書き出しとして従来からよく採用される文章は次のものです。

「本研究は、著者が慶應義塾大学大学院理工学研究科後期博士課程在学中に、同大学理工学部〇〇〇〇教授の指導のもとに行ったものである。(この後に、具体的にお世話になった主査、副査の方々に対して謝辞がつづく。)」

このように記載すれば、学位論文に結実した研究が、本学理工学研究科後期博士課程に所属してなされた研究であることがわかり、指導を担当した教員名や審査委員名がわかります。また、謝辞の部分は学位論文で唯一、個人的な感謝、感想を記録することができるセクションなので、有意義に利用することを勧めます。

4. 著作権に関する注意

学位論文では他の研究者の学術論文や著書に書かれている文章、図表、写真等を引用することがあります。このような引用に際しては、必ず引用元を明記しなければなりません。また、引用が同じ文章で何行にもわたる場合、学位論文で引用した部分を明確にしておくことが必要です。これを怠ると著作権を侵害し、場合によっては盗作と見なされ問題となります。引用したことを明らかにするには、参考文献に挙げ、その文献番号を書き込むことや、例えば、

真壁ら[3]は、その理由を、「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」としている。

というように、引用した文章を括弧にくくり区別します。

図や写真などをインターネットを利用して入手し、学位論文に転載することも増えていきます。これらも、研究機関名、研究者名、出典(URL)等を記載すると共に、学位論文に転載することの許可が必要となります。特に、無断転載禁止などと書かれている場合はもちろんのことです。

5. 文章作法について

博士学位論文に限らず、一般の学術に関する文章作法について識者から学ぶことを勧めます。論文の論旨を明確にし、分かり易くするために役立ちます。そのためにいくつかの書籍も出版されています。巻末に参考文献をごく一部とりあげました。また、もう少し細かな、「仮名遣い」などの指針が、学会の論文誌への投稿に際しての「執筆のしおり」などと題して公開されています。学術誌への投稿と採録を経験し、学位論文の執筆に進んだ皆さんはすでに参考にしているはずです。

学位論文を書き上げたら、指導教員からのコメントや指導を受ける前に、自分自身で何度もしっかりと推敲してください。少し時間をあけて読み返すと客観的な目で論文をチェックできるはずです。

文章作法についての参考文献

木下是雄：『理科系の作文技術』。中公新書 624，中央公論社，1981

杉原厚吉：『どう書くかー理科系のための論文作法』。共立出版，2001

古郡延治：『論文・レポートのまとめ方』。ちくま新書 122，筑摩書房，1997

櫻井雅夫：『レポート・論文の書き方 上級(改訂版)』。慶應義塾大学出版会，2003

以上